

絵本で広がる 子どもの世界

絵本の読み聞かせの大切さを、イベントを通じ保育者、保護者に伝えています。



Page 1



スエズでのイベントの様子：絵本の読み聞かせの大切さについて参加者に語るラニヤ氏

夢を広げる絵本イベント

絵本の読み聞かせの大切さを保育者、保護者に伝えることを目的に、プロジェクト対象5地域でイベントを実施しています。絵本作家のラニヤ・フセイン・アミン氏の協力のもと絵本の読み聞かせを通して子どもの情操を育むことの意義を伝え、参加者一人ひとりが、絵本をどのように子どもに読み聞かせるのがよいかを考える機会となっています。

読み聞かせの大切さ

- 親子の信頼関係を深める
- 道徳的基準を伝えることができる
- 子どもの言語を発達させる
- 子どもの想像力を発達させる
- 親子の会話につながる
- (寝る前の読み聞かせにより)心地よく眠りにつける

絵本の読み方

- 初めて読む絵本は、事前に絵本の内容を確認するようにする
- 絵本のカバーを見せながら、どんな話なのかな？どんな登場人物が出てくるのかな？といった声掛けをし、ワクワク感をもたせる導入を行う
- 絵本を読み終わるまでは、子どもと物語の内容について話さない方がよい(子どもが集中力を失うため)
- 子どもが集中を欠いている様子があれば、物語について子どもと語り合い、集中できるようにしてあげるのも良い
- 子どもの表情をみながら絵本の読み進め方を工夫する
- いろいろな口調で話すようにする
- 読み聞かせ後は、あらためて子どもと目をあわせながら絵本の物語について語り合うのが良い

「子どもが生まれてから早い段階で絵本の読み聞かせをすることを奨めます。幼い子どもが内容を理解することは難しいですが、絵本に親しむ経験は、本(絵本)が好きな子どもを育てることにつながります。読み聞かせ中は、子どもとのコミュニケーション(抱きしめたりする)も大事にし、親子間の信頼関係も深めていきましょう。」

ラニヤ氏の絵本作家としての思い、アドバイスに真剣に耳を傾ける参加者の姿が印象に残ります。

プロジェクトは総計5,400冊の絵本を50の対象園に配布しています。

子ども達への読み聞かせを保育園での活動に積極的に取り入れること、また、保育者が保護者に対して読み聞かせの機会をたくさん作るように働きかけることを奨励しています。

絵本好きの子どもが増えることを期待しています。

JICA鈴木理事の保育園訪問

2019年7月には、JICA鈴木理事がホラス・エル・アキーダ保育園を訪問。子ども達の歓迎を受けるとともに、保育園の取り組みを視察。保育室ですやすやす眠るかわいらしい赤ちゃんの姿にっこり。

同日に行われた絵本イベントでは、84冊の絵本がカリオベイヤ県の10園に供与されました。



イスマイリアでのイベントの様子



私は遊び
私は学ぶ

遊びを通じた学び
を広める地道な
啓蒙活動

Page 2

もと接することの意義を自らの経験を踏まえて語ります。

最後のシーンはこれからの未来を担う子どもたち、子どもたちの成長を支える保育園の先生の姿と保育園の活動の様子が流れ、「遊びは、子ども達の将来を変える力になる」の言葉でプロモーションビデオは完結します。

協力保育園：
アル・ゴルフ保育園（イスマイリア）
アル・ヤスミン保育園（カイロ）

<https://www.ecd-egypt.com/الصفحة-الرئيسية/توعية/>

「遊びを通じた学び」の普及

子どもの興味や関心を保育の中心に据える「遊びを通じた学び」の考え方を保育園で実践していくためには、保護者、地域社会の理解を得ることが重要です。プロジェクトでは、プロモーションビデオを作成（タイトル「私は遊び、私は学ぶ」）し、ワークショップや研修時に活用するとともに、ソーシャルネットを使って今後啓発活動を行っていく計画です。

プロモーションビデオ内容

最初のシーンは、女の子がなぜ遊びが好きなのかを語る姿から始まります。

（最後は、遊びが好きだから遊ぶのよ！というところが微笑ましい）
「砂の上でおままごとするのが楽しい、人形やカニの形だって作れるんだよ」「アレキサンドリアの海岸に行き行って遊ぶのが大好き」と子ども達の無邪気で元気な声が続きます。

次のシーンでは、子育て中の家族が



造形遊びに取り組む子ども達

登場。お母さんは、「お父さんと子どもが遊びを通して意思疎通を図っているのを見るとうれしくなる」と言い、お父さんは、「子どもと無邪気に遊ぶ時間は二度とない、この瞬間を楽しみたい」と語ります。

次のシーンは専門家3人が登場します。

良好な家族関係を築くためには親子で遊ぶ時間を大切にほしい、子どもは多くのことを遊びから学ぶと小児科医のオマル医師は説きます。

プロジェクトの神谷チーフアドバイザーからは、「遊びで育ついろいろな力（具体的には、共感力、判断力、手加減、コミュニケーション能力など）」があり、日本の保育現場では、自由遊びが広く実践されていること、具体的には「コーナー遊び」と「砂遊び」を挙げエジプトでも実践してほしい、との願いが語られます。砂遊びを例に、「友達と一緒に遊ぶ中で協調性や想像力が養われ、また、形や数、濡れたら固まるなど科学的な関心をもつきっかけにもなる」と遊びの効用が述べられます。

オマル医師は、遊ぶ環境づくりには安全への配慮がとても大事であると、子どもの誤飲やテレビ・スマホの過度な視聴への警笛をならします。

保育の専門家であるヘバ氏は、集団遊びと保育士が明るく表情豊かに子ども

حتى تكون أسرتك صحية وسعيدة، عليك (على طفلك) أن...





子どもの健康状態を確認するJICAボランティア



子どもの健康管理 (JICAボランティア 紹介とともに)

身長体重を測定し、子どもの健全な成長を見守ります。

Page 3

**ポートサイドに派遣
JICAボランティア
シハーン (アラビア語名) です。
「エジプトでの活動が楽しみです」**

私は小学校で5年間養護教諭として働いたのち、青年海外協力としてスーダンで半年間活動をしました。スーダンでは、マナーギルという地方の町で、主に小学生に対して、手洗い・歯みがきの方法、食育などの指導を行いました。スーダンの子どもたちは、私の指導に興味を持ち、指導後には指導した手あらいの方法を私に見せてくれたりしました。

エジプトではポートサイドの保育園で保健に関する活動をします。海が綺麗で、美味しい魚を食べることができるとても素敵な場所と聞いています。活動を通してポートサイドの子ども達に関わることをとても楽しみにしています。



スーダンでの活動の様子

**イスマイリアに派遣
JICAボランティア
アリージュ (アラビア語名) です。
「一日一日を大切に」**

エジプトのイスマイリアに9月月から赴任しています。エジプトに来る前は、スーダンに9ヶ月いました。その前は、日本の小学校で養護教諭を5年間していました。スーダンでは、学校の子供達に手洗い・歯磨きを教えたり、保健省の職員と教材づくりや保健啓発ポスターを作成したりしていました。今回、任国が変わりエジプトに来ましたが、世界遺産がたくさんあり、とても発展していることに驚きました。とても素敵な国に来ることができて嬉しいです。エジプトでは、技術協力プロジェクトのモデル園を巡回して、みなさんと一緒に協力しながら、より良い保育園作りを目指していきたいです。子どもが大好きなのでとても楽しみです。



スーダンでの活動の様子

子どもの健康管理にむけて

ポートサイドとイスマイリアにおいて、身長体重計を使用し、子どもの健康状態を把握する活動を始めます。

子どもたちが保育園の一日の生活の中で元気に遊ぶためには、身体の良い状態を保つことはとても大切です。身長、体重を定期的に測定し、栄養不足と思われる子ども、太りすぎと思われる子どもに適切な指導をすること、保護者に生活習慣を見直すようにアドバイスすること、必要に応じて医療機関での診療を進めることを保育園(保育者)に期待しています。

2019年9月には、体重身長の測定方法、記録の取り方を指導するワークショップを実施、各園には体重計と身長計をプロジェクトから供与しました。

ポートサイド、イスマイリアの社会連帯省支局(家族子ども部)には、学校保健を専門とするJICAボランティアが9月から赴任。供与した身長体重計を使い、モデル園における健康管理の取り組みを支援しながら、子どもたちの健やかな成長を応援していきます。

※二人はスーダンの政情が不安定となったため、任国変更措置によりエジプトに赴任しています。

コーナー保育 砂場あそび

各園でのコーナー 保育や砂場遊び の実践報告

Page 4

子どもの自発的な遊びを促進 ～砂遊び～

新年度に向け、各園で砂場の設置進行中！またプロジェクトから各園に、砂場整備道具や砂遊び玩具も配布済です。

砂場を清潔＆安全に保つには、保育者の日々の努力が必要。それは保護者の懸念点の1つでもあります。プロジェクトでは、砂場整備を含むチェック表とレポートを、各園から定期的に提出してもらっています。



スエズのエルギディード保育園(写真)では、チェック表にもあるように、砂場の砂を掘り起こしています。こうすることで、砂が子ども達の扱いやすい柔らかさになり、日光消毒もされ、また異物が見つかります。更に砂をふるって、小さな異物も取除いています。大変だと思いますが、これも全て子ども達の為。プロジェクトはいつも保育者を応援しています！

BY 梶山専門家

各地のモデル園、頑張っています！ コーナー保育の実践

8月上旬、カリオベイヤやイスマイリア、ポートサイドのモデル園を訪問し、各園でのコーナー保育の実践を視察。特に印象的だったのは、先生が子どもたちの遊びの中に入り、子どもたちの遊びを積極的に促してる姿です。子どもたちと一緒に遊びを楽しみながら、子どもたちの遊びを豊かにする、そうした先生がこれからもっと増えていくことを楽しみにしています。

以下に2つの園のコーナー保育に関する取り組みを紹介します。

BY 長谷川専門家

エル・ゴルフ保育園

子どもたちが大好きなアイスクリーム。アイスクリーム屋さんになってみたいという子どもの興味・関心をもとに、ごっこ遊びコーナーをつくり、先生と子どもたちが遊びを一緒に楽しんでいました。



アイスクリーム屋の店員とお客さんそれぞれの役割に分かれ、ブロックや他のおもちゃをアイスに見立てながら遊びを楽しんでいる姿はとてもかわいいですね。先生の声かけでごっこ遊びのストーリーがどんどん広がっていきます。

エル・ヌール保育園

エル・ヌール保育園は、子どもの数が多く、部屋に遊びコーナーを設置するような広さがありません。先生たちは、コーナー保育をどのように実践するかを考え、どのような工夫ができるか話し合いを重ねています。出した一つの答えは、部屋ごとに楽しめる遊びの一つ決め、それぞれのクラスの子どもたちが順繰りに各部屋をまわるというもの。この取り組みを試験的に実践しています。



保育園の環境はどれもそれぞれ。子どもたちがいろいろな遊びに慣れ、興味・関心にもとづきながら遊びを選択し、遊びを楽しむことができる、そうした保育実践をぜひ展開して欲しいと思います。